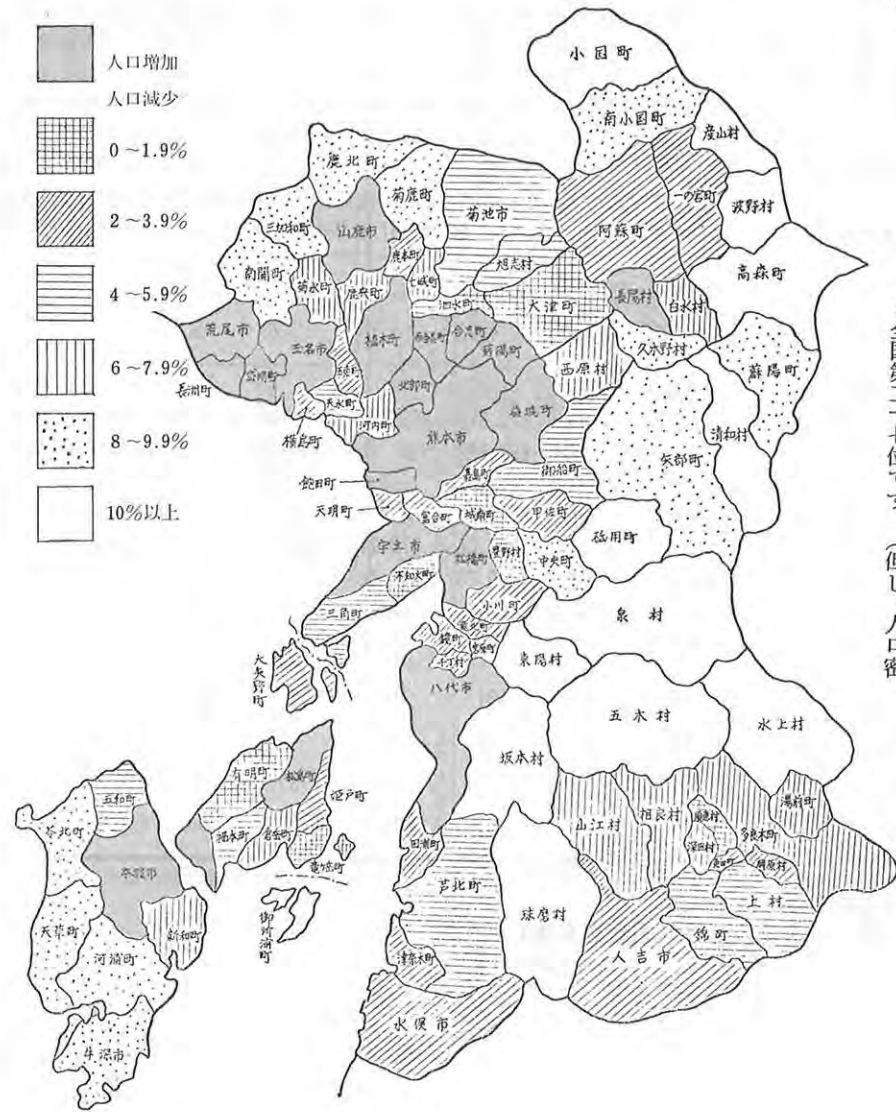


べると人口増加市町村数が八から十九に増加し、人口減少率一〇%以上の市町村数が四十五から十三と大幅に減少し、前回人口減少率一五%以上の市町村数が十三あったものが今回は零であり人口減少が鈍化しました。

二、人口密度

一戸あたり人口密度は二百四十七人で全国の二百九十七人をかなり下回っており全国第二十七位です。(但し、人口密度計算のための面積は、建設省国土地理院発行「昭和四十九年全国都道府県市区町村別面積調」によっている。本県面積は六千九百四十九・七一八境界未定地域を除くVで計算しました。)

図3 市町村別人口増減率(昭和45年~50年)



三、男女の別

(1) 昭和五十年の男子人口は八十万九千八百五十三人、女子人口は九十万五千五百五十八人で男は女にくらべて、九万五千三百五人少なく、性比(女百に対する男の数)は八十九・五です。

(2) 昭和四十五年の人口にくらべ男は一万一千七百一人(一・五%増)、女は三千八十一人(〇・三%増)と男の増加が目立ちました。

このため性比は昭和四十五年(八十八・五)にくらべて若干上昇しました。

(3) 市部郡別に性比をみると市部の八十九・一に対し、郡部は八十九・九で市部の方がわずかに低くなっています。

四、世帯

昭和五十年の世帯数は四十七万三千三百九十四世帯、その世帯人員は百七十一万五千十一人で一世帯あたり人員は、三・六二人です。昭和四十五年にくらべると世帯数は三万六千九百二十五世帯(八・五%増)増加したため一世帯あたりの人員は昭和四十五年の三・九〇人よりも下回り核家族化及び単独世帯の増加に伴う世帯細分化の進行がみられます。

離転職の体験

本渡市

山田 昭 充

電器店経営を夢み電気の専門学校に入學し、免許を取り実社会にはばたきました。初めに熊本の本電工の会社に就職しましたが、初めて手にする器具や道具も多く、こんな難しく苦しいものだろうかと思う日々が続いた中で三千V高電圧をショートさせ一時間ほど意識を失い身をもって電気の恐ろしさを知り郷土へと帰ってきました。そして、幾月がすぎ電気の関係会社に就職するか、普通の会社に就職するか、決断しかねていましたが、事故のショックで初心を忘れかけているのに気がつき、家庭電器器具の販売店に勤務して、夜遅くまでセールスに出て笑顔が絶えない余裕さえ生まれました。しかし、小さい電器店とはいえず学歴のなさが待遇や社交面で悲しさをつのらせたのです。その時、新聞で高校通信教育制度を知り技術が身を助けると思っていた自分に反省をして、夜遅くまで一生懸命勉

強をし、目をまっ赤にし店にかけこむことが日課となりました。そして、二年を経過したとき店主からも信頼をうけ、未来が開けたと同時に希望と安堵感を持つたとき、肝臓炎という病にたおれ病院通いが続き若さを放棄した日々でした。ついにある日、店主から一時、休暇をとって病を治すように言われ事実上の解雇と理解し塗方にくれる毎日でしたが、仕事をしないつらさが身にしみ職業安定所の門をたたいたのです。冷静さを失った私は、電器とは全く関係のない内装になりまの会社に勤務するようでしたが、仕事を手持っている喜びは何にもかえがたいものでした。幸い病も治り三ヶ月を過ぎようとしたとき、社長から親せきの電器店を紹介してやるから君の好きな電器の仕事でがんばれと励まされ自分の本心を確認した心境でした。高校通信教育も卒業まであと一年、離転職をくり返す中に働くことの喜びを知り、どんな難問題にも打ち勝つ勇氣と忍耐を身につけたことは、離転職の成果として大事にしていきたいと思う昨今なのです。

(勤労青少年)



水産業に対する抱負

若北町

松野 重 幸

我が町若北は、東に有明海、西に天草洋を持ち四季には多種多様な魚が回遊して来る所です。

この恵まれた漁場で明日の漁業の担い手たる当漁協青年部は一本釣、延縄、磯建網、柵網、まき網等に従事している若者二十五名から構成されています。その一員であります私は、柵網磯建網漁業を周年を通じて営んでおります。県立水産高校卒業と同時に長崎の魚市場、さらに当若北町漁協職員を経て、漁業に従事致しまして四年、まだ一年生ですが、この道を選ぶに当たってはそれ成りの夢と理想を描いていました。しかし、現実と理想は相当の違い、現在は私自身、迷い悩んでいるところです。魚も確かに少なくなりました。

魚種によってはその姿さえ見られぬもの

さえ出ています。漁業資材、生活必需品の高騰、国際海洋法問題、公害等どれ一つを見ても明るい材料は見受けられません。私を始め青年部の皆さんも切実にこれからの漁業については考えているはずですが、あれもやって欲しい、これもやりたいと皆さんにお願いしたい事は一杯ありますが……。こんな不安な世の中だから、私はこれからの沿岸漁業は、グループでのあり方を真剣に考えて行かねばならない時期に来たのではないかと思えます。一人一人の力を持ち寄り今迄以上の水揚げを得る事、たとえば漁船漁業と養殖漁業の結び付き、一人の力ではやりたい仕事もやれないけれども、グループでなら十分やれます。資材やその他の面でも共同購入を行いより安く、経費面の節約も行えると思います。又漁船漁業の方においては稚魚の放流と大型魚礁の組み合わせをより一層効果的に進めてもらい漁獲の安定をはかる。

私の考えもけつして目新しいものではないかもしれませんが、ここ四年の経験からやりグループでの漁業を強く叫びたいのです。

明日の漁業を語る時、私達若者の目が輝き又一人でも若者が漁業に希望を持ってくれるようみんなで頑張りたいものです。

(若北町漁協青年部部長)